

大國主命は縁結びの神様として全国区の知名度ですが、また医薬の神様でもあります。

現在、出雲市には島根大学医学部附属病院、県立中央病院、市立総合医療センターの3つの総合病院があり、県立大学は看護学科を有しており、トリニティカレッジや看護専門学校もある医療分野が充実した自治体です。

島根大学医学部附属病院のC病棟個室の天井には調湿・消臭効果のある炭が入られています。この炭は出雲大社本殿にある天前社の檜皮から出来たものだそうです。

兄神たちのねたみから、赤く焼けた大岩を全身で受け止め大やけどを負った大國主神は、蛸貝比売命（キサガイヒメノミコト）・蛤貝比売命（ウムガイヒメノミコト）によって助けられています。この二柱の女神が祀られているのが天前社です。

赤貝と蛤に含まれているキチンキトサンやタウリンが火傷の治療に有効であることを、なんらかの経験で古代人は知っていたと考えられます。この神話の下りは前述の病室の和紙の壁面に銅板プレートとして飾られています。

『出雲国風土記』には沢山の草木の記述があります。これらの薬草は朝廷への献上品でもあり、他国売りの交易品でもあります。

荒神谷で発掘された358本の銅剣、加茂岩倉の39個の銅鐸を当時の出雲国が保持し得た財源をこの薬草にみる学説もあるほどです。



《《郡別》》 山野、河川・池、海岸地形に記載される草木等整理表

『出雲国風土記の植物』（島根県立八雲立つ風土記の丘友の会発行）から学びました。それぞれの草木の説明抜粋欄については、原文を転記せずに、まず熟読した上で、専門用語などを省略させていただき初心者として得た知識をまとめた感覚で記載させていただきました。これから学んでいくためのひとつの過程のなかでの整理としてご理解いただければと思います。それにしても、草木のところだけでも『出雲国風土記』は大変に面白い書物です。これから、もっと深く、学んでいきたいと思いました。

掲載名称	よみ	現在名称	郡別草木記載チェック										当時の使途(想像)	掲載頁	掲載No.	延喜式薬寮の記載にある出雲国からの貢進量	
			榑	出雲	神門	飯石	秋鹿	粟	油	材	食・他						
商陸	いおすき	ヤマゴボウ	○	○				●							19	14	1斤5両
葛根	くずのね	クズ	○	○	○			●							18	19	
牡丹	ふかみぐさ	ボタン						○	●						18	20	
藍漆	やまい	アイ	○	○				●							19	21	1斤8両
蕨	わらび	ワラビ	○	○	○										19	22	
蕨蕨	わらび	ワラビ						○							19	22	
草薺	ところ	エドドコロ(オオドコロ)		○					●						20	23	2斤
杜仲	はいまゆみ	マサキ	○	○	○			●							21	25	
芍薬	えびすくすり	シャクヤク						○	●						21	26	
女青	かわねぐさ	ヘクソカズラ(ヤイトバナ)						○							22	28	
貝母	はいはくり	アミガサユリ(バイモ)						○	●						23	29	
茯苓	まつほど	ブクリョウ	○	○	○			●							23	30	6斤
女萎	えみくさ	アマドコロ	○	○	○			●							24	31	1斤
蜀椒	なるはじかみ	サンショウ	○	○	○			●							24	32	5斤
白薇	やまかがみ	ビャクレン	○	○				○	●						25	33	1升
菁頭蕒	おはぎ	ヨメナ						○	●						25	34	
人参	かのにけぐさ	チョウセンニンジン	○					●							25	35	
升麻	とりのあしぐさ	サラシナショウマ(ミツバショウマ)	○	○	○			●							26	36	

掲載名称	よみ	現在名称	郡別草木記載チェック										当時の使途(想像)	掲載頁	掲載No.	延喜式薬寮の記載にある出雲国からの貢進量	
			榑	出雲	神門	飯石	秋鹿	粟	油	材	食・他						
麦門冬	やますげ	ジャノヒゲ	○	○				●							10	15	升
独活	うど	ウド	○	○	○	○		●							10	21	1斤
石斛	いわくすり	セッコク			○			●							11	3	
前胡	のぜり	ノダケ			○			●							11	4	2斤
連翹	いたちぐさ	レンギョウ						○	●						12	6	2斤
黄精	おおえみ	ナルコユリ						○	●						13	7	2斤
百部根	ほとづら	ビャクブ	○	○				○	●						14	8	2斗
白朮	おけら	オケラ	○		○			○	●						14	10	5斤
薯蓣	やまついも	ヤマノイモ	○		○			○	●						15	11	6斤
苦参	くらら	クララ						○	●						15	12	11斤
細辛	みらのねぐさ	ウスバサイシン	○	○	○	○		○	●						15	13	1斤8両

《郡別》 山野、河川・池、海岸地形に記載される草木等整理表														
掲載名称	よみ	現在名称	郡別草木記載チェック			当時の使途(想像)	説明抜粋	掲載頁	掲載No.	延喜式典薬寮の記載にある出雲国からの貢進量	掲載頁	掲載No.	延喜式典薬寮の記載にある出雲国からの貢進量	
			楯縫	出雲	神門									飯石
椎	しい	ツブラジイ	○	○	○	●	ブナ科常緑広葉の高木。日本の本州以南と南鮮とに分布。この母種がツブラジイ(コジ・シイ)で、出雲にはともに分布自生する。わが国のシイなる呼称はスダジイとツブラジイとを総合したものと考えてよく、このことは、昔も今も同様。中国の柯はマツノシイ属に付けられた名。また、日本のシイの属するシイ属には栲の字が付いた種類が多い。	45	87					
海榴	つばき	ツバキ	○			●	中国原産。落葉高木センダングサ科。これとは別に我が国では、花が春咲く春の木として椿の字を作り国字訓とした。日本のツバキが中国へ伝わり隋唐時代中原の地で栽培され、海石榴の名がつけられた。海を渡って来た石榴(ザクロ)のような実のものを意。そして三字名は作詩上短縮されて海榴ともなり、やがて、この名がわが国へ伝わって来た。次いで中国では、海石榴に近縁のツバキ類の自生が発見され、山茶の名が作られた。(ツバキとチャとは近縁、ツバキ属、チャ属と別属にされてもいたが今は同属に取り扱われることが多い)そして海石榴、海榴の字は使われなくなり専ら山茶が通用した。やがてこの山茶の名はわが国へ入り、ツバキには椿や山茶が使用されるに至った(通俗には、山茶花、茶山花がサザンカに使われているが、サザンカの漢名は茶梅)。出雲地方に広く分布し自生しているツバキは、植物学的にはヤブツバキで、栽培変種したものがないツバキ。	46	88					
椿	つばき	ツバキ	○	○	○	●	ヤママモ科常緑広葉の暖帯性高木。日本・台湾・南鮮・中国に分布。出雲では比較的暖かい海辺やあまり入りこまない山地に自生。生葉楊梅皮は樹皮の乾燥品。	46	88					
楊梅	やまもも	ヤマモモ			○	●	アコマツは山地性、クロマツは海岸性、この両種の自然種種のアイマツの3種が日本産の二枚葉の松。出雲沿岸部では、アコマツ・クロマツの混性林が発達して間種の個体がとても多い。すなわち、この3品は昔から今まで、いわゆる松の総合称の中へべくられている。近時日本のアコマツと同種類のものが中国にもあり、クロマツが朝鮮にもある説がある。	46	89					
松	まつ	マツ	○	○	○	●	柏は柏の俗字。側柏でコナテガシワであるが、古来柏は榎と同植物に使った。榎は中国産のシナガヤ。日本のカヤは古名カで榎の字を借用。日本特産常緑針葉の高木。出雲ではこのカヤ(母種)は比較的少なく、大部分は内帯日本の適応型チヨボガヤ、イヌガヤ(日本・朝鮮・中国北部に分布)やハイイヌガヤ(内帯日本に分布)はカヤに似ているが別属別科。カヤはイチイ科、イヌガヤはイヌガヤ科。両種は時に混同される。生葉榎実(カヤ)の肉質の外果皮を除いた核子の乾燥品。	47	90					
榎	かえ	カヤ	○	○	○	●	ミカン科落葉高木。日本・朝鮮・中国北部・満州・ウスリー・アムールに分布。キハダは今の出雲では少なくなったが、奥山地には小木が見られる。生葉黄蘗(黄柏)はキハダの樹皮の外皮を剥除したもの。	47	91	1斗				
栴	きはだ	キハダ		○	○	●	ケヤキの材質下品なものをツギとし俗字で榎を用いた。ニレ科落葉高木(日本・中国・朝鮮に分布)。榎はケヤキに使われているが、その本体は中国産クルミ科落葉(羽状複葉)高木のシナサワグルミであると言われている。しかし今の中国書には中国産ケヤキに榎樹、大葉榎を使っている。	48	92					
榎	つき	ケヤキ	○	○	○	●	中国産ニレのシベリアニレ。中国ではニレ属やハリゲヤキ属のものに、楡の名がある。日本のハルニレは古名ヤニレ(也爾礼)で日本特産。葉の小さいアキニレは別名インゲヤキ・カワラゲヤキで、日本・台湾・朝鮮・中国に分布。出雲ではハルニレは山地、アキニレは海に近い山野に多い。ともにニレ科に属する落葉高木。	48	93					
楡	にれ	ニレ	○	○	○	●	朝鮮や中国に原産する有刺の落葉の小高木。クワ科。出雲国風土記は神門・飯石・仁多に記載。しかし榎の本体ハクワの渡来以前とみる。これからみれば当時は、出雲の山地に多く有刺の小高木スズミ(バラ科)を誤認したものか、蜜が食う山地性の桑類ヤマグワ(日本特産)か、ノグワ別名クワ(日本・朝鮮・満州・中国に分布)を当てたものか、あるいはそのほかのものを指しているのか不明。このほか出雲国風土記記載の柘をミズキ科のヤマボウシに当てたものがある。ヤマボウシは日本・朝鮮・中国に分布する落葉の高木。	48	94	2斤				
柘	つみ	ヤマグワ(ノグワ)		○	○	●	クワ科落葉高木。榎は俗用。日本の暖地および中国に分布。類似近縁のクワは日本・朝鮮・中国に分布し前者と同様に樹皮を布や紙の原料とした。この2種は時に混同されている。出雲では真の自生ではないかも知れぬが、現在各地に野生状のものもある。クワ科に属する。	49	95					
柘	かじ	カジノキ		○	○	●	中国産マクワ。出雲国風土記に出ている桑は、日本産のヤマグワかノグワか、あるいは中国から入ってきたものか決まりにくい。ヤマグワやノグワの分布などについては、柘の項に記しておいた。	49	96					
桑	くわ	クワ		○	○	●	中国産マクワ。出雲国風土記に出ている桑は、日本産のヤマグワかノグワか、あるいは中国から入ってきたものか決まりにくい。ヤマグワやノグワの分布などについては、柘の項に記しておいた。	54	108					
海藻	め	カイソウ	○	○	○	●								
海松	みる	海松の一種	○	○	○	●								
紫菜	のり	ノリ	○	○	○	●								
凝海藻	こるもは	テングサ	○	○	○	●								

《郡別》 山野、河川・池、海岸地形に記載される草木等整理表													
掲載名称	よみ	現在名称	郡別草木記載チェック			当時の使途(想像)	説明抜粋	掲載頁	掲載No.	延喜式典薬寮の記載にある出雲国からの貢進量	掲載頁	掲載No.	延喜式典薬寮の記載にある出雲国からの貢進量
			楯縫	出雲	神門								
夜干	からすおろぎ	ヒオウギ	○			●	アヤメ科多年生草木。本州以南から台湾・朝鮮・印度の北部に分布。黒い種子をぬば玉またはば玉と云う。出雲の海岸近くや山足の原野などに生えている。	26	37	2斤			
桔梗	ありのひふき	キキョウ		○	○	●	キキョウ科。出雲の山野に点在する。日本・朝鮮・満州・ウスリー・中国北部に分布。生葉桔梗根は根の乾燥物。また生葉沙参はツリガネニンジの根を乾かしたもの。	26	38				
竜胆	えやみぐさ	リンドウ		○	○	●	リンドウ科に属する多年草に当たるが、厳密にいうと、朝鮮・満州・中国北部に分布するホンリンドウ。出雲全域に自生するので出雲国風土記の神門郡だけの記録は誤り。生葉竜胆は根茎および根の乾燥物。	27	39	1斤			
続断	おにのやがら	シュロソウ		○	○	●	中国から日本に分布。マツモシノ科越年性の壮大な草本。出雲では船通山や立久恵などに見られる。この続断をシノ科の多年草オトリコソウとする人もいる。オトリコソウはアジアの北部に広く分布し、出雲でも各地に見られる。	27	40	1斤			
白芷	かざもち	ヨロイグサ				●	ハナウド、カサモチ、ヨロイグサとするものがある。日本産のハナウド類はカラフト・千島・カムチャッカ・北米に分布するもの、中国からは記録されていない。ヨロイグサは中国の興安白芷で東北アジアに分布し、中国地方と九州に自生し、出雲では大社と神原と窪田に少産する大形の多年草。ハナウドは神門川筋や木次附近や温泉など。三者はセリ科多年生草本。生葉白芷はヨロイグサ根の乾燥品。	28	41	3斤			
秦椒	かわはじかみ	フユザンショウ		○		●	すべて蜀椒の項で記した。はじかみと呼んだ植物は辛味のもの。	28	42				
百合	ゆり	ユリ		○	○	●	出雲に広く分布自生するユリはササユリ、コオニユリ、オニユリの3種。ササユリは日本特産、コオニユリは日本・朝鮮・満州産、オニユリは日本・朝鮮・満州・中国の産。わが国の本草学者は百合を日本のササユリに当てたがこれは誤用、また百合の別名に山丹が挙げてあるが、山丹はイトハユリ(中国特産)なる紅色花種であるからこれも当たらない。出雲国風土記では昔から誤用されたようにササユリを指しているかも知れないが、神門郡にだけあるのは如何に解釈すべきか。ユリ類の属する科はユリ科。	28	43				
巻柏	いわくみ	イワヒバ		○		●	シダ植物にカゲノカズラ類イワヒバ科に属し、アジアに広く分布する。方言はイワマツ。中国には万葉の別名もある。	29	44	1斤			
当帰	やまぜり	トウキ		○	○	●	本草学者は中国の当歸をわが国のセリ科植物のトウキに当てたので、この植物にトウキの名がきた。このトウキは日本特産で、中国の当歸はホントウキなる近似種で中国特産。生葉当歸日本産トウキはこのものを根を温湯に浸した後、乾燥したもの。出雲国風土記には神門・飯石の両郡に記載してあるが、二本トウキの自然分布は出雲に及んでいないから、当時は同属或いは異属の類似品を誤認したものともみる。現在ヤマゼリ及びオオゼリ(トクゼリ)[セリ科植物]は出雲に分布自生。	29	45	1斤6両			
石葦	いわぐさ	ヒトツバ		○		●	シダ類ウラボシ科常緑多年生。出雲では乾燥した崖地や岩上樹上に見られるが庭園にも植えられている。その分布は日本の暖地のほか広くアジアに及ぶ。	29	46				
大薊	やまあざみ	アザミ				●	中国の小薊は日本特産のノアザミの類似品、大薊は山地性の秋アザミ(茎は高く葉も大きい)が頭花は小さい)の一種。元来日本のアザミ類は日本で分化発達した特定種が多く、きちんと日本のアザミの種に当てられない。古来多くの本草学者は大薊をヤマアザミとした。ヤマアザミの種は、九州と四国にしか分布しない秋アザミ。出雲地方に分布自生する秋アザミで中国の大薊に似たものは、ヤマアザミに最も近いヒツツキアザミ(上阿井と三瓶山に分布)、ヨシノアザミ、ビッチュウアザミ、トゲナシアザミ、モリアザミの5種。出雲国風土記は飯石郡のみ記載があるが、出雲産山地性秋アザミの代表としてトゲナシアザミを選ぶ。刺無しの意は葉や茎が無刺であるのではなく、小頭花の総苞外片が刺状にとび出ないと言いつつ、キョウ科の多年草。なお和名抄に大薊は野菜の部にある。或いは根をゴボウのように使用するモリアザミは出雲国風土記も指しているかも知れない。また山地性のサンバサワアザミかも知れない。	30	47				
白頭公	おきなぐさ	オキナグサ			○	●	日本のオキナグサ(ワノアシシガタ科)は朝鮮や中国にも分布するもの、牧野博士は、漢名白頭翁は中国や満州に分布するヒロハオキナグサに同定されたがこれが正しい。出雲国風土記では、この白頭公の産地を飯石郡にのみ挙げているが、オキナグサは出雲全域に分布する多年草である。生葉白頭翁はこの植物の根の乾燥品である。	31	48	2斤3両			
白芨	かがみ	シラン			○	●	ラン科の多年草。日本の暖地や中国に分布自生。出雲国風土記に飯石郡に記載があるが、現在山陰地方に自生品なく庭園に植えられているのみ。生葉白芨は根の乾燥品。加々美との関係は不明。	31	49				
赤箭	かみのやがら	オニノヤガラ		○	○	●	日本・台湾・中国に分布する腐植土寄生の無用菌。生葉天麻は根茎の乾燥品。出雲では個体数は多くないが山地の湿った林間に見られる。	31	50	1合			
秦皮	とねりこ	トネリコ			○	●	中国特産トネリコ類、日本のトネリコ類ではない、従来生葉秦皮として使用されたのは日本産トネリコ類数種の樹皮の乾燥品。出雲地方のトネリコ類はマルバアオダモ、ヤマトアオダモ、この変種のツクツトネリコ、コバトネリコ、アラゲアオダモの五品でコバトネリコ以外は各地に見られる。	32	51				
麻	あさ	アサ	○	○	○	●	中央アジア原産。古代中国より伝来して繊維や果実を利用。出雲国風土記には麻が島根郡の鯉松島や秋鹿郡の恵美浜、出雲・神門両郡の斐伊河下周辺にあるとされているのは大麻の野生状態とみてよいものやら。麻の字は大麻のほか苧麻(ナンバンカラムシ)亜麻(アマ)苧麻(イラクサ)黄麻(ツナン)苧麻(イチビ)など、茎の繊維の強靱なものに名づけていた。わが国ではカラムシ(日本・中国・台湾に分布)を苧麻に当てていた。	37	64				
茅	ち	チカヤ・スキ			○	●	イネ科多年草。東亜の温帯に広く分布。生葉茅根は根茎の根枝や鱗片を除いて乾燥させたもの。全出雲のいたるところに自生。	37	65				
芦	あし	アシ(ハマフキ)			○	●	イネ科水生多年生草本。アシは別名ヨシまたはハマオギで全世界に分布しているが、わが国にはこのほかツルヨシ(日本・台湾・朝鮮・中国・ウスリーに分布)、セイタカヨシ(セイコノヨシ)、日本・中国・東南アジア・ミクロネシア・オーストラリアに分布)があり、出雲も3種が自生。水辺の砂地にツルヨシ、泥質の水辺や水中にヨシ、暖かい淡水辺にセイタカヨシ、ところによって混生。生葉蘆根はアシの根茎の乾燥物。	41	74				
荻	おぎ	オギ			○	●	イネ科。日本・朝鮮・中国北部・ウスリーに分布。出雲では宍道湖や中海などの水の近い土手などに散生。	41	75				
藤	ふじ	ノダフジ	○	○	○	●	蔓木の総称。国産のものはフジ、ヤマフジ、共に山野に自生、栽培もされている。2種ともに日本特産。出雲も両種、自生。マメ科の纏性蔓木である。	43	80				
李	すもも	スモモ	○	○	○	●	バラ科のスモモは中国原産の落葉高木で、かなり古い時代に渡来してわが国では栽培された。今は自生状のものも見られる。	43	81				
楡	ひ	ヒノキ			○	●	ヒノキ科ビャクシン(日本・朝鮮・中国に分布)。古くからヒノキ(現代の中国書には日本のヒノキを日本花柏としてある)に誤用して今日に至った。ヒノキは楡・扁柏(中国の扁柏は別名側柏で、コナテガシワである)とも誤用であったが、今は改むべし。	44	82				
杉	すぎ	スギ			○	●	中国産コウヨウザン、広葉杉。日本特産でスギ科常緑針葉高木。中国名は倭木であると牧野博士著にあるのを見ると、この名は日本のスギが中国へ入ってからできた名とみる。もともと中国にも日本のスギに近縁の別種が発見されて、これを柳杉(スギは日本柳杉)という。また楡は国字である。現在出雲奥山地には自然生のスギすなわち天然杉がないでもないが、大部分が植林杉。	44	83				
赤桐	あかぎり	アブラギリ	○	○	○	●	出雲国風土記の赤桐をトウダイグサ科アブラギリとした書もある。アブラギリは中国原産の落葉高木。往時渡来し採油用(桐油)のため栽植したものが、今は各地に野生化。出雲の暖かい地方でも同様。	44	84				
白桐	しろぎり	キリ	○	○	○	●	桐または泡桐の異名があり日本のキリと同種でゴマハグサ科(あるいはノウゼンカズラ科なる別科とする)の落葉高木。国内各地に栽植。朝鮮や中国が原産とされている。	45	85				
楠	くすのき	クスノキ	○		○	●	中国産クスノキ科に属する数種の常緑高木。わが国ではクスノキ科常緑広葉高木のクスノキ(日本・台湾・中国に分布)に誤用されて今日に至った。楠はクスノキのみならず、同じクスノキ科タブノキ(イヌグサ、日本・台湾・南鮮・中国に分布)、タカトウダイ科ユズリハ(日本特産)にも誤用された。漢名には楠で今は楠をクスノキと誤用はかたは、現在出雲地方の神社仏閣の境内や人家近くに、いくらかクスノキの老巨樹が見られる。これは自然生のものの残存か移植したものか不明。積雪の多い奥山地では生育困難。	45	86				

おんぼり考察

因幡の白うさぎ伝説では、フニザメに皮を剥かれ、た白うさぎに、「海水で身を洗い、日光に当たれ」と教えた八十神は悪玉で、「真水で身を洗いガマの穂綿でくるまれ」と教えた大國主命は善玉とされているが、澄んだ海水(塩水)に浴し、日に当たるといふのは、ひりひりしめはするが、当時としては最高の消毒法で、こうしてからガマの穂綿にくるまるといふのも最適の治療法であった。と興味深い記述もあります。

これは『薬草図鑑』で伊沢凡人博士が述べておられますが、博士はこの本の冒頭、次のようにも述べています。

「薬草には何十万年という長い間の人体実験を通して獲得した知恵が染み込んでいます。幾多の尊い人命が捨石になつています。」

まさに、死がいつも隣合わせにあった古代の人々の暮らしを想起させる言葉だと感銘を受けました。

『出雲国風土記』に掲載されている草木の数は六十種を越え、『播磨国風土記』等現存する他の風土記の数倍になります。薬として煎じたもの、衣服の材料や染料としたものなど、その用途は多岐にわたります。

しかし『因幡の白うさぎ』に出てくるガマは『出雲国風土記』には記載がありません。確認の術はありませんが、川や池などの水辺に多数集まって生える多年生草のガマは、出雲の沼地などには恒常的に生育していたとは考えられます。

※『出雲国風土記』には「暮むし」「いわゆる」「衣食住」に関する項目はありません。しかし、草木の記述から想像をたくましくすると、少しずつ見えてくることもあります。

出雲ブランド活動と出雲国風土記が関わったこと ②							
	出雲の冬	出雲のごっつおおもてなし	出雲のごっつお 神在月	出雲のごっつお 春	お茶ごと	出雲ブランド商品	地域が誇る観光スポット
橋本郡							
寺院の編							縁結び神社(宇美神社)
神社の編							玖波神社 佐香神社 立石神社
山野の編							
河川・池の編	宍道湖						
海岸地形の編							赤浦
通道の編							
郡司の編							
その他						ソノA4証書ファイル	延命地藏
食	小伊津甘鯛 十六島のり・岩海苔 酒(ヤマサン正宗)		料理以久護(小伊津甘鯛 十六のり入りちらし寿し)	(イノシシしょうゆ味鍋他)			
出雲郡							
寺院の編	出雲大社 日御碕神社 隠ヶ丘						大寺薬師の仏像 韓童神社 曾根能夜神社 万九千神社・立虫神社 仏経山
山野の編	シクラメン						
河川・池の編	宍道湖						
海岸地形の編	経島						猪目洞窟
通道の編	神門通り						
郡司の編	道の駅湯の川						
その他	吉兆行事と番内さん 初詣 日御碕灯台 和布刈り神事 築地松 鷺浦の町並み				神迎えの道の会	富士通ノートパソコン セキスイ壺 出雲窯陶器	出雲キルト美術館
食	鱈の干物 白いか 鮎 亀の手 そぞ、かじめ ベニイカ ポベ飯 カニ 板わかめ 干しあらめ みさき井(日本海井) みさき井(かじめ井) みさき井(いかたま井) みさき井(さざえ井) みさき井(いか納豆井) 出雲ぜんざい 大社でんぷら・かまぼこ・やきそば 大和しじみ うず煮 ご縁バーガー 酒(出雲富士) 酒(十旭日) 酒(天隠) 酒(八千子)		日本料理ほう古(観会席) 日本ぜんざい学会 老号店(出雲ぜんざい) やくも寿し(出雲つけそばセッパ) たつざわ商店(ぼべめし) まの商店(ヒラマサの海鮮井) ぐるめ幸洋丸(古事記井他) 荒木屋(縁結びセッパ) 奴(ラーメン・蒸やきそば)	(春の会席料理) (お花見ぜんざい) (むし寿し) (かじめ井) (ヒラマサの海鮮井) (日本海井他) お食事処柿谷(ヒラマサお造り)	かまぼこ		
神門郡							
寺院の編							岩根寺 馬木不動尊 長浜神社
神社の編	神西湖						神西湖
山野の編							
河川・池の編	神西湖						
海岸地形の編							
通道の編	道の駅キララ多伎						
郡司の編							
その他						炭八 KBツツキ(タオル・寝装カバー) ヘイネスアルパム/糸綴じノート 出雲神話紙芝居 Doライト株式会社 出雲木工株式会社	岩坪 田儀櫻木たたら製鉄遺跡
食	西浜いも いずも和牛 大和しじみ 海鮮たこやき 橋波こんにやく	バンブー(出雲そばやき他) 居酒屋おろち太鼓 (ボツカの唐揚げ他) 旬彩酒房漁人 (小伊津甘鯛ろこ揚げ他)	(出雲三味) 居酒屋おろち太鼓 (のどくる風焼き他)	(出雲三味) 居酒屋おろち太鼓 (地魚刺身盛り合せ他) 旬彩酒房漁人 (小伊津甘鯛ろこ揚げ他) (かつべ和牛ステーキ他) (かまぼこ・かまぼこ) (やまかけそば) 焼肉むべ(高根和牛) CoCo老番屋 (出雲しりが焼きカレー) 献上そば羽根屋(割子定食)			
飯石郡							
寺院の編							
神社の編	須佐神社						
山野の編							
河川・池の編							
海岸地形の編							
通道の編							
郡司の編							
その他	節分 ジビエ料理						
食							
共通							
その他	日本海の荒波 雪景色 温泉 とんどさん 炭団 冬の星空 出雲弁 寒鮒 干し柿				はしま・こばしま にしめ 三角揚げ 赤貝 味付けは甘辛く つけもの(大根、白菜、うりなど) 果物(ぶどう、いちじく他) お菓子(饅頭の天ぷら他) その他(郵便、酔の物他)	出雲万年筆 ボロシヤツ	

出雲ブランド活動と出雲国風土記が関わったこと ①							
	大好き☆出雲！発表会	フォトボイス	その他活動	観光スポット取材展 (出雲大社周辺)	神在月マップ	お願いどころマップ	言葉の宝石
橋本郡							
寺院の編							一畑薬師 佐香神社 愛宕山消防神社 縁結び神社(宇美神社)
神社の編							
山野の編							
河川・池の編							
海岸地形の編							
通道の編							
郡司の編							
その他	久多美コミセン ふるさと久多美再発見の会 ひらた蓮の会 おんすうふらたろう		灘分コミセン(海)				
食							
出雲郡							
寺院の編							
神社の編		唐川(韓童神社)	唐川(韓童神社)	出雲阿国の墓 出雲大社 御向社 筑紫社 天前社 素戔社 命主社 乙見社 阿須伎社 三歳社 上宮 出雲大社周辺(東十九社) 出雲大社周辺(西十九社) 屏風岩と因佐神社 下り参道 祓社	出雲大社 十九社 上の宮 日御碕神社 万九千神社	鰐淵寺 出雲大社 日御碕神社 韓童神社 伊奈西波岐神社 富神社 八上姫神社 鹿島神社、膳夫神社蹟 火守神社 旅伏山の都武自神社 御井神社 万九千神社	
山野の編							
河川・池の編		唐川(唐川茶畑、油桐)					
海岸地形の編		稲佐の浜		稲佐の浜 泰納山・於國塔 神門通り 阿国通り	稲佐の浜	稲佐の浜 奉納山・於國塔	
通道の編		神迎えの道			神迎えの道 からさで大橋 神立橋		
郡司の編							
その他	高浜コミセン 湯上り美人姫やがみちゃん 山太	唐川(河下台場跡) 鶴鷲(町並み、塩づくり他) 荒神谷(荒神谷遺跡・公園) 一畑電車出雲大社前駅 旧JR出雲大社駅	遙基コミセン 高浜コミセン 鶴鷲元気な会 スモークハウス白南風 古代出雲うどん おろち大根	一畑電車出雲大社前駅 ダイコクさま7つの石像 出雲阿国	神在祭 お忌みさん	出雲阿国の墓 湯の川温泉 腰折れ地蔵	飯塚秀子、敏蒸(バラ殿) 深津典子(出雲寮) 錦田剛志(万九千神社) 月岡誠、橋本真樹(漁師)
食	鶴鷲の薬塩、海藻アラメ 燻製					ぜんざい発祥	
神門郡							
寺院の編							華蔵寺・金勢堂 神門寺 岩根寺 長浜神社 久奈子神社 安子神社
神社の編		田儀(多伎芸神社)			朝山神社		
山野の編							
河川・池の編							
海岸地形の編							
通道の編							
郡司の編							
その他	出雲商業高校 出雲工業高校 出雲農林高校 田儀郷林家たたら製鉄 遺跡保存会 大津三谷神社子ども獅子	田儀(たたら跡、楯ヶ巻)	台場公園(宅伎成)		神在祭	栗栖山城址	村松英俊(Childs Pictures Bank) 矢嶋見一(ベルックスガラス工房) 青木智美(アートフォーマー) 小村姫久美(出雲bijin) ジツ/ヒトカラゲ
食							
飯石郡							
寺院の編							
神社の編		須佐(須佐神社)				須佐神社 多倍神社	
山野の編							
河川・池の編		須佐(須佐川)					
海岸地形の編							
通道の編							
郡司の編							
その他							横山猛(須佐神社) 横山茂和、徳子(須佐屋)
食	須佐ジビエ						
共通							
その他			大好き☆出雲！グッズ 大好き出雲国産コンクール 未来の出雲国産コンクール 神門通り観光客インタビュー 新成人インタビュー 出雲神話新作紙芝居 出雲の産業技術		神在月文化振興月間		



大好き☆出雲！茶屋
in ゆめタウン IZUMO



編纂委員会の様子